①本時を構想する上でポイントとなる素地

○問題解決のための知識・技能

・(2位数)(2位数)＝(2位数)となる筆算の仕方を学習している。

○既習とつなぐ見方・考え方

・50＋70の計算を，10を単位として5＋7＝12，10が12こで120

とみて計算する考え方を学習している。

○共同追究でのゆさぶり

・(2位数)＋(2位数)の計算で，百の位に繰り上がる筆算は初めて。

○ゆさぶりに対応する経験

・10が10こで100になったとき百の位に1とかく学習をしている。

≪学習問題≫

　ひろしくんは，54円のあめと72円のクッキーを買いました。

代金はいくらになるでしょう。

教材研究ノート№2-A-8

≪定着・活用問題≫

授業計画･実施記録

主眼

≪学習問題≫



②見通し: 十の位が繰り上がり，答えが100より大きくなる筆算の仕方が分からない。

→今までの筆算と同じように，数え棒を使って考えればよい。

②学習課題:54や72を，数え棒などを使って表して，52＋72の筆算の仕方を考えよう。

１　課題とまとめを一体のものとしてとらえるには

③個人追究:数え棒などを使って，答えが100より大きくなる筆算の仕方を考え，説明する。

④共同追究前半（解法の比較検討）

「数え棒の表し方と比べながら筆算の仕方を説明しよう。」

→「1が6個，10が12個は100が1個で10が2個になるから126になる。」

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 5 | 4 |
| ＋ | 7 | 2 |
|  | 12 | 6 |

④共同追究後半（思考を深める）

「答えの126を右のように書いてもいいかな？」

→「10は10個で100になるから，百の位に

1と書かなくてはいいけない。」

「位の部屋には，0～9までの数字しか入らない。」

⑤まとめ（児童生徒の言葉で）

・今までの筆算と同じように，位を揃えて計算すればよい。

・十の位が10より大きくなるときは，百の位に１繰り上げて百の位に書く。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 8 | 6 |
| ＋ | 2 | 3 |
|  |  |  |

⑥定着･活用問題

(1) 86＋23の計算を　ひっ算でしましょう。

　　答えはどのように表せますか。

(2) 次の計算をしましょう。

①　92　　②　53　　③　30　　④　13　　⑤　72

　＋86　　　＋72　　　＋98　　　＋95　　　＋30

＜本時の展開に当たっての留意点＞

・筆算で計算したいという子どもの願いを位置付ける。今までの2けたの筆算とどこが違うのかを問いかけ，答えが百より大きくなる筆算の仕方について考えることを明確にしたい。

・共同追究では，筆算の答えで十の位の位置に12と書いている子どもの考えをとりあげて，十進位取り記数法のかき表し方の理解を深めたい。

【板書計画】